第2回 訪問B検討会 記録

開催日：2025年7月15日（火）
記録作成日：2025年7月15日（火）
参加者（別紙参照）

当日の議事

- 1, 挨拶
- 2, この検討会で検討する内容について・前回の内容から
- 3, 近隣市（八王子）の取り組み共有
- 4, 多摩での取り組みをどのように進めるか 意見交換

～以下内容の要約～

1. 前回の振り返り:訪問Bプロジェクトの現状と方向性

以下の2つの柱での検討してきた

- ①現在実施している、住民主体の訪問B(訪問Aに近い形態)
- ②住民が主体となる新たな形の訪問B

今後のPJの方向性:

・介護予防ケアマネジメントとの関連性も考慮しつつ、既存の訪問Aに近い訪問Bを訪問Bとしてどのように整理していくか検討をしていく。今回のPJでは、住民主体での訪問Bの実現方法、支援体制について重点的に検討する。

2. 近隣市の取り組み事例(八王子市)の共有

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/welfare/001/houmon_b.html

- ・現在、約45の事業所が実施しており、NPO、自治会、住民有志、生協、企業など多様な主体が関わっている。
- ・既存の活動団体に補助金を出す形で訪問Bとして認定。緩やかな運営が特徴。
- ・団体は5人以上の住民で構成され、活動報告義務があるが、手続きは簡素。あくまで住民同士の助け合いに対し、市が補助金を出している形。
- ・活動の幅を広げると加算がつくような補助金となっている

【多摩市との相違点を踏まえた八王子訪問Bの特徴】

- ・専門知識がなくても事業を開始でき、機動力がある。
- ・活動団体が存在しない地域が存在し、サービスに空白地帯が生じている。※団体間の情報共有はあまり行えていないとのこと
- ・団体ごとにサービス内容や料金体系が異なり、直接利用者と提供者が連絡をとる形。
- ・補助金の使途に関するトラブルが発生することもある。(コーディネーターでフォロー)
- ・八王子市の訪問Bは介護保険制度外のサービスであり、ケアプランや国保連への請求、初回加算などはない。

3. 質疑応答と多摩市での新たな訪問 B について意見交換介護保険との関係性

【事業所・企業の視点】

- ・既存の事業所が八王子モデルを導入すると、事業としての継続が難しくなる可能性がある。
- ・企業でも登録できるとなった場合、すでに行っている企業では社会貢献的な活動の一環として参加する
- ・可能性はある。

【福祉関係者の視点】

- ・住民主体での活動は理想的だが、空白地帯を生まない工夫や専門性が必要な方への対応は要検討。
- ・現状の「進行疾患・精神疾患など専門性が必要な人への訪問ヘルプ」と「住民主体の訪問 B」と「広域対応型の訪問 B(現行の訪問 B)」の 3 本立てが必要ではないか。
- ・介護サービスを必要としない人には、住民主体の活動を積極的に勧めるための啓発活動も必要。
- ・包括支援センターによるアセスメントが非常に重要になる。
- ・住民の声が強い現状を考慮し、疾患等の明確な規定を設けることで、アセスメント後の選択肢を絞ることも有効。

4. 今後のアクション

【市内にある同様の活動の把握】

- ・現在、地域で住民同士の助け合いや小規模な支援活動(3人以上で助け合いの活動をしているもの)がどのくらいあるか、情報収集を行う。
- ・会議参加者から情報を募り、集計する。

【訪問 B の最終目的の再確認】

- ・訪問 B の増加自体が目的ではなく、「元気な高齢者を増やし、要介護に陥る人を減らす」ことが究極の目標。そのためには、介護保険サービス以外に、多様なサービスの選択肢を用意する必要がある。

5. 次回の議題

今回集計する情報をもとに、住民主体での訪問 B の具体的な構築方法について議論を進める。最終的には、市への提言・提案を目指す。

以上